科目名	地域・在宅看護論方法論Ⅱ （在宅看護実践の考え方）	開講時期	3年次前期	講義担当者	川平奈智子
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

実習前事前学習課題を行い活用してください。

科目のねらい

在宅で看護を受ける療養者の病状および療養生活の安定性に着目した在宅看護時の介入と対象である療養者と家族のさまざまな側面を統合し対象の暮らしに寄り添った在宅看護過程を理解する。

授業目標

1.退院前から始まる在宅療養へのスムーズな移行を前提とし、療養者の疾患・病期別の在宅看護介入の目的・目標が理解できる。
2.療養者と家族の生活、様々な価値観を尊重した長期的な視点の必要性が理解できる。
3.在宅療養者とその家族の生活上の課題、状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討できる。
4.療養者と家族が望む在宅療養生活を実現するための多職種連携・協働の意義が理解できる。

DPとの関連

3年次前期に開講する授業です。専門分野の実習の前であり学生は学習意欲を増す時期です。
実際に実習で用いる記録用紙で展開を行うことは在宅看護の特徴を再確認する機会になると
考えます。ディプロマポリシー1. 関係を築く力、2. 考え抜く力、3. 前に踏み出す力
4. チームで働く力、5. 探究する力が養われるよう関連させた構成にしました。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	1. 在宅看護の展開 在宅看護過程展開のポイント 在宅看護過程の展開方法	講義	
2	2. 在宅看護介入　時期別の特徴 病期・各時期別在宅看護介入の特徴と目的 在宅療養準備期（退院前）・在宅療養移行期・在宅療養慢性期・在宅増悪期・終末期 在宅療養終了期	講義	
3			
4	3. 事例展開 1）在宅療養者の事例を展開	GW	地域・在宅実習Ⅲの記録用紙を用いて展開する
5			
6			
7			
8	まとめ 在宅療養者のQOL維持・向上と多職種連携・協働の意義	講義	

受講上の注意	地域・在宅観論実習Ⅲで学びを深めるために、在宅看護での視点を理解してください。	**参考文献**	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護論（医学書院） 看護技術プラティクス（学研）
使用するテキスト	ナーシンググラフィカ　在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版）		
評価方法	筆記試験、参加姿勢などで総合的に評価		

科目名	老年看護学方法論Ⅲ	開講時期	3年次前期	講義担当者	中村まり子
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱで学んだ高齢者特有の疾患の病態生理から看護迄を事前学習とします。また、地域包括ケア病棟から在宅に戻るための退院時支援についても同様とし、老年看護学実習Ⅱにおいても活用できる学習課題とし理解を深めていきます。

科目のねらい

人生の最終段階を支えるエンドオブライフケアは、老いや病を抱えながら地域で生活する人々の暮らしをはじめ、家族や地域とのかかわり、価値観や文化的背景をも含む総合的かつ長期的な支援であることを理解する。また、多様な生活の場の広がりを学び、高齢者の望む生活を支えるための老年看護の視点や役割を考える。

授業目標

1. 老年看護学は人々の価値観や文化的背景をも含む総合的かつ長期的な支援であることを理解する。
2. 日本人の死生観や望ましい死に関する研究結果をふまえ高齢者の尊厳をまもる支援が理解できる。
3. 高齢者の望む生活を支えるアセスメントの視点を理解する。

DPとの関連

この講義は、3年次の老年看護学実習Ⅱを履修する直前に学びます。日本人の死生観や日本人が考える望ましい死に関する研究結果をとおし、高齢者の尊厳をまもるための支援とは何かを探究し、多角的で柔軟な老年看護の視点を身につける科目です。そこで、本校のディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）、前に踏み出す力（アクション）、チームで働く力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	高齢者と死（ACP：人生会議）	講義・GW	事例紹介
2	エンド　オブ　ライフケアの考え方	講義・GW	DVD視聴
3	家族を含めた終末期	講義・GW	DVD視聴
4	高齢者の看取り	ディベート	死生観
5	多様な生活の場	講義・GW	事前学習の活用
6	高齢者が主体となる目標志向型思考での看護過程の展開	講義・GW	事例を通して
7	生活を支えるアセスメントの視点	講義・GW	病態・生活機能関連図
8	まとめ　老年看護学実習Ⅱに向けて	講義（1）	発表会

受講上の注意	事前学習は、2年次春季休暇前に提示します。課題の提出は指定の日時に必ず提出をして下さい。グループワークを伴うことが多いため、グループワークの目的を意識し、積極的に参加をして下さい。	**参考文献**	系統看護学講座 専門分野Ⅱ　老年看護学 （医学書院）
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　老年看護学②　高齢者看護の実践 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）		
評価方法	事前課題学習、講義やグループワークの参加状況、試験などで総合的に評価		

科目名	看護実践と法制度	開講時期	3年次前期	講義担当者	末永　雅樹・川平奈智子 非常勤講師
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

基礎分野や専門分野で学んだ学習内容を復習し授業に臨んでください

科目のねらい

これからの看護は法制度との関係がますます深くなり無関心ではいられません。法制度を理解して、医療従事者としての責務を果たすことが求められることから、ここでは看護師が行う看護実践に必要な法制度を学ぶ。

授業目標

1．看護・医療・介護に関係する法制度の必要性を理解できる。
2．看護師として、法律的専門性を維持し看護実践するうえで　必要な知識が理解できる。

DPとの関連

3年次前期に開講される講義です。専門分野の実習を前に看護過程に必要な社会保障・社会保険制度について、看護師の視点で学ぶ必要があります。看護に特化した学びだけでなく、社会人として社会の仕組みを知り、社会の一員としての責務を考える機会となり、ディプロマポリシー1．関係を気付く力2．考え抜く力3．前に踏み出す力4．チームで働く力5．探求する力が養われるよう構成しています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	就労条件・環境と疾病の関係と健康診断 身体障がいと法制度（成人）	講義	・あらゆる人の人権を尊重した法制度を理解する。
2	母子保健法　母子健康手帳（母性）	講義	・妊産婦と児を守り支援する法制度について事例を通して理解する。
3	子育て支援に関する施策の活用（母性）	講義・演習	
4			
5	障がいのある子どもと家族の生活を支えるしくみと看護（小児）	講義	外部講師（療育センター） ・子どもたちの育ちや自立を支援する制度と看護について重症心身障がい認定看護師による講義を受ける。
6	重症心身障がい児と家族の看護（小児）	講義	
7	精神保健福祉法の基本的な考え方と障害受容 精神保健福祉法　（精神）	講義	・精神障害者の生活者としての自立を支える法制度を理解する。
8	精神保健関連法規　障害者総合支援法 心身喪失者等医療観察法　（精神）	講義	
9	精神障害者を地域で支えるには 社会福祉サービスに関する法　就労支援　（精神）	講義	
10	精神障害者を地域で支えるには 守秘義務と個人情報保護法　（精神）	講義	
11	在宅療養者が利用する社会保障制度①（地域・在宅）	講義	・介護保険の被保険者を対象に介護保険のサービスについて明確に理解する。 ・老年期の対象に関する介護保険の視点だけでなく、在宅という視点からの学びとする。 ・あらゆる発達段階の在宅療養者を対象が活用する社会資源を訪問看護の視点で考察する。
12	在宅療養者が利用する社会保障制度②（地域・在宅）	講義	
13	特定疾患療養者と法制度（地域・在宅）	講義	
14	入院（所）支援（地域・在宅）	講義	
15	退院（所）支援（地域・在宅）	講義	
受講上の注意	各看護学のねらいを理解し、受講してください	**参考文献**	各看護学担当が指定
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障④　看護をめぐる法と制度　他		
評価方法	試験、参加状況、課題レポートなどで総合的に評価 配点割合　末永30%・川平50%・他20%		

科目名	臨床判断と看護の実践	開講時期	3年次前期	講義担当者	羽立友美・末永雅樹 川平奈智子・西誠一
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

専門基礎分野で学んだ学習内容を復習し授業に臨んでください

科目のねらい

看護師には、ライフステージにおける健康上の患者のニーズを把握し、患者の反応によって何が重要なのかを見極める臨床判断能力が求められる。この科目では「看護師のように考える」ことを目指し、看護師が臨床で患者の状態の変化に「気づき」「解釈」し、実践しながらふり返る過程を通し、経験知を積んでいくことで看護実践できる基礎的能力を身につけるものとする。

授業目標

1. 専門的知識を習得し、看護の場面で活用できる。
2. 対象に変化に気づき、その対応について考えられる。
3. 患者の反応に関心を向け、看護更衣を評価できる。
4. 主体的・対話的学びをとおして、学習成果を深めることができる。

DPとの関連

臨床判断と看護は3年前期に開講され、30時間15コマの授業です。ライフステージのおける健康上のニーズの把握と、患者の状態を推測し実践に繋げていく思考過程をを通し、ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力(倫理)、前に踏み出す力(アクション)、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	臨床判断の基礎能力を習得する必要性（成人）	講義	・解剖生理・病理・薬理で学んだ基礎知識を復習しておく。
2	事例に活用すべき解剖生理・病理・薬理の知識（成人）	講義・演習	・患者の状態を解決するために必要な観察がわかる。
3	胸痛と呼吸困難感で倒れた人の何を観察するか（成人）	演習	・誤嚥性肺炎を発症した高齢者：急性期事例を通して学ぶ。
4			
5	症状・兆候から患者の状態を解釈する臨床判断トレーニング 1）術後 合併症患者事例　（成人）	講義・演習	・薬の有害作用と気づけるかただの発熱に関する観察では気づけないのは早期発見早期治療対処から遅れ、人命に大きく関わることを理解する
6			
7	急な高熱、昏迷状態　何がおこっている?臨床判断するには（精神）	講義	・在宅療養の方が急変をした際に看護師としてどのような行動をとるべきかと考え判断する思考を育てる
8	生命の危険を伴う有害反応をどのように考えるか（精神）	講義・演習	
9	在宅療養者の意向の変化・家族の反応（地域・在宅）	講義	・小児看護の特徴を知り、事例をもとに気づき、解釈、反応、省察のプロセスで看護を考える。
10	在宅療養者の調整方法（地域・在宅）	講義・演習	
11	小児看護の視点の捉え方(事例をもとに考える) 1）コミュニケーション　2）子どもの安全（小児）	講義	・妊娠、分娩その後も健康な身体として関わるが、何か起こっているいう主観的視点からどのように判断するか考えることができる
12	子どもの検査・処置・隔離における看護（小児）	講義・演習	
13	母性における情報の収集・整理とアセスメントの視点 母性におけるEBNとNBN（母性）	講義	
14	事例（更年期、思春期）から学ぶ 女性のライフサイクルに関わる知識（母性）	講義	
15	リフレクション　臨床的思考 臨床判断プロセスの確認（成人）	講義	
受講上の注意	各看護学のねらいを理解し、受講して下さい	**参考文献**	各領域担当が指定するテキスト　資料など
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学⑤　臨床看護学総論　他		
評価方法	試験、参加状況、事前課題レポートなどで総合的に評価 配点割合：羽立45%・川平25%・末永15%・西15%		

科目名	看護管理	開講時期	3年次前期	講義担当者	小倉医療センター看護部長
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護部長

事前学習内容

看護管理とは看護の目的を効率的、効果的そして創造的に果たすための機能であると使用テキストにも示されているように看護を取り巻く社会情勢や保健医療制度などの改革、経済性や競争性など多くの学習と理解から発展的に学ぶ内容となっているため1年次からの看護学概論、各看護学の学びをもとに「専門職としての責任」を果たすためには不可欠な学習ですのでしっかりと事前にテキスト内容を確認して臨んでください。

科目のねらい

看護管理の概念と実践に必要な管理の基本について学び、看護サービスを提供するうえで、看護管理がどのように看護の質に影響するか考える。また、講義での学びは統合実習だけでなく様々な分野の臨床実習にも関連して考えることができるよう、協働、組織、社会に関する視点を含め、看護師への成長となるための重要な要素となる講義である。

授業目標

①看護管理は、看護管理者だけでなくすべての看護職に求められる内容であることを理解する。
②組織とマネジメントについて理解する。
③看護管理に必要な法律・制度・政策について理解する。
④看護管理の対象と、その実践範囲について理解する。

DPとの関連

看護管理は、看護管理者だけではなく、看護学生を含めた全ての看護職者が理解しておかなければなりません。看護管理がどのように行われているか、臨地実習をとおして理解を深めることができることも考えます。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、チームで働く力（協働）、探求する力（成長）に関連づけられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	看護とマネジメント （看護マネジメントとは） 社会の変化と看護職の役割	講義	看護管理41巻　第1章　P16～ 第3章　P76～
2	看護サービスのマネジメント （協働：他者と共に活動すること）	講義	看護管理41巻　第2章　P38～
3	業務のマネジメント（計画立案とプロセスマネジメント） セルフマネジメント	講義	看護管理41巻　第7章P216～ 第8章P236～
4	組織で取り組む看護活動（分業・連携と協働・資源管理）	講義	看護管理41巻　第4章P98～
5	看護をとりまく諸制度 （看護と経営、看護現場に影響を与える制度と法律）	講義	看護管理41巻　第6章P206～ 第10章P286～
6	看護の質向上のための取り組み （看護倫理・法令順守・組織論）	講義	看護管理41巻　第5章P160～
7	看護専門職とキャリア	講義	看護管理41巻　第9章P259～
8	まとめ	まとめ	
受講上の注意	難しい内容の部分もありますが、疑問や質問、確認は積極的に行ってください。	**参考文献**	配布資料

使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　41巻　看護管理
評価方法	試験、講義への参加度　総合的に評価

科目名	看護研究	開講時期	3年次通年	講義担当者	末永　雅樹 他 専任教員
		単位数	1		
		時間数	30時間（15回）	実務経験	看護師実務経験者

事前学習内容

1年次の「看護研究と基礎」で学んだ研究の一般的知識を復習して授業に臨むこと。

科目のねらい

1年次の「看護研究と基礎」で学んだ研究の一般的知識を想起し、研究をまとめることで今後の看護実践を研究的な態度で行う能力を養う。看護実践で学んだ看護体験を客観的にふり返り、看護理論や文献を活用しながら看護の専門性や独自性を追求し自己の看護観の基盤を形成する。また、論文作成・発表・評価を通して思考力・判断力・表現力を高めることを目指す。

授業目標

1. 看護研究を行う意義、方法、研究プロセスを述べることができる。
2. 文献検索ができ、その活用方法を述べることができる。
3. 看護研究における倫理的配慮の意義を述べることができる。
4. 論文作成要領をもとに論文作成ができる。
5. 抄録作成要領をもとに抄録作成ができる。
6. 看護研究をまとめ発表・評価できる。

DPとの関連

看護研究の応用は3年生で開講され30時間15コマの授業です。担当教員とのやりとりを通し、自己の看護実践をふり返り看護観の基盤を形成します。ディプロマ・ポリシー（DP）の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、探求する力（成長）に関連づけられていることを念頭に授業を行っています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	ケーススタディとは①	講義	
2	ケーススタディとは②	講義	
3	ケーススタディの書き方(論文作成)	講義	
4	発表のコツ(抄録・パワーポイント作成)	講義	
5	自主的活動時間　担当指導教員との面談		（3回6時間以上） 毎回出席確認あり
6	自主的活動時間　担当指導教員との面談		
7	自主的活動時間　担当指導教員との面談		
8	看護研究発表会		
9	看護研究発表会		
10	看護研究発表会		
11	看護研究発表会		
12	看護研究発表会		
13	看護研究発表会		
14	看護研究　リフレクション（追加・修正・課題　等）		担当指導教員との面談
15	看護研究　まとめ	講義・まとめ	担当指導教員との面談

受講上の注意	学則、細則に従い学習時間の3分の2以上の出席時間を満たすこと、そのうち、担当教員との面談時間に関しては3回6時間以上を満たすこと。	**参考文献**	個々の学生のテーマに応じたものを担当指導教員との話し合いで決める
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学④　看護研究		
評価方法	面談時間が満たされた者に対して、学習過程(担当教員面談時の内容)、論文内容、発表技術等を「看護研究(ケーススタディ)ルーブリック評価」に沿って担当教員が最終評価する。		

科目名	災害看護	開講時期	3年次前期	講義担当者	西　誠一
		単位数	1		
		時間数	15時間（8回）	実務経験	有：看護師実務経験者

事前学習内容

災害看護の対象は人々、コミュニティー、そして社会であるため、対象の人の心理や地域社会の構造などの基礎知識の確認をして下さい。また、連携して活動を行う多職種についても復習しておきましょう。

科目のねらい

災害発生は突然起こりひとたび起こると人々の健康・生活に大きな影響を与え通常の医療体系では対応できず特殊な医療・看護が必要になる。災害の種類特徴を理解し、看護職が果たすべき役割と行政・地域の支援体制などを教授し災害急性期から慢性期・回復期に至る災害サイクルに沿った看護を理解する。基礎知識を利用し学生自身が災害発生時にトリアージや応急処置について実施することが出来る。

授業目標

1. 災害看護の基礎知識を理解する。
2. 災害医療災害看護の概念を理解する。

DPとの関連

災害看護の役割と実際の活動の基礎を学習することで、地域・社会で今後も発生すると予想されている。集中豪雨などの局地的災害、また地震などによる大規模災害時の対応について理解を深めることができると考えます。ディプロマ・ポリシー（DP)の関係を築く力（倫理）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（成長）に関連付けられています。

回	学習内容と成果	方法	備考
1	災害の定義・種類・行政の働き （過去の災害について・災害関係の法律）	講義	
2	災害サイクルに応じた看護（急性期・亜急性期の対応）	講義	
3	災害の種類特性に応じた看護展開・地震災害について （東日本大震災について）（教材ビデオ）	講義	
4	応急処置（教材ビデオ）	講義	
5	トリアージ（机上シミレーション・演習）	講義	
6	トリアージ（演習）	講義	
7	国際救護法について	講義	
8	まとめ	まとめ	
受講上の注意	いつ起こるかわからない災害について学習することで災害を身近なものととらえ発災時に看護職として少しでも力を発揮することが出来るようになってもらいたい。また学習した知識をもとに防災意識を高めてほしい。	**参考文献**	
使用するテキスト	ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践③　　災害看護		
評価方法	演習終了後のレポート、試験		